



西武信用金庫の考えるSDGs宣言について

東京営業部 河村 達矢

ポイント

- SDGsは、信用金庫業界全体で広がりを見せており、2021年3月16日現在でSDGs宣言を公表した金庫は144金庫にのぼるが、SDGs宣言の公表を検討している金庫(55金庫)の中には、メディアに取り上げられるような取組み等がなければ、SDGs宣言を公表する段階にないと考えている金庫が多くある。
- 西武信用金庫* (以下「当金庫」という。)は、かねてから信用金庫の基本理念である「相互扶助の精神」とSDGsの理念とは親和性が高いものと認識し、本業を通じてSDGsに資する取組みを行っており、2020年2月1日にSDGs宣言を公表した。これからも当金庫として変わらずに今まで以上にSDGsを意識して活動していくことを明確に宣言(発信)することで、普及促進に寄与するとともに、SDGsに資する企画や取引先からの相談対応、取引先への課題解決施策提案をスムーズに行うことができるようになっている。
- コロナ禍で取引先の本業支援に力を入れていく今だからこそ、地域の中小企業を支える地域金融機関として、信用金庫の業務とSDGsを一体と捉える当金庫の考え方を取り入れるのも一案である。

1. SDGsに対する考え方

当金庫では、信用金庫の業務は金融面、非金融面問わず、SDGsの考え方を体現したものであると考えている。

また、信用金庫の本業を通じた取組みや地域の課題解決をする上で「経済」「社会」「環境」の3つの側面の調和を意識し努めている。さらにSDGsに資する取組みを行うにあたり、以下の重点項目を選定している。

【図表1】重点項目の選定

経済・社会	①地域経済の発展と産業の活性化
	②豊かで魅力ある街づくり
	③多様な人財育成
環境	④環境活動

①および②は、地域金融機関として地域の活動に貢献することは不可欠であるという観点、③および④は、SDGsの根本であるという観点から選定された。

2. SDGs宣言の公表までの流れ

当金庫は、21世紀金融行動原則「持続可能な社会の形成に向けた金融行動原則」に信用金庫業界で初めて署名をした信用金庫である(2021年1月時点の署名金融機関288機関)。

これは環境省が事務局機能を担い、始まったもので、2010年に設置された起草委員会から当金庫の理事長 高橋 一朗氏(当時:事業支援部長)が参画していた。

当初は、環境金融を主に議論していたものであったが「3.11」をきっかけに、環境の視点だけでなく地域の未来、経済なども含めた持続可能な社会の形成こそ21世紀の金融の役割であり、日々の業務で可能な限り取組みを実践していこうという7つの原則が出来上がり、これに賛同した当金庫は2011年に署名をした。

この原則の考えこそ今でいうSDGsと認識し、日々活動をしていた。

更に遡ると、当金庫では、2003年より、「地域活性に資するNPO団体・ソーシャルビジネスへの総合支援の取組み」を行っていた。これは多様な地域課題、社会課題の解決の担い手であり、持続可能な社会創出に寄与

*2020年9月末の当金庫の概要は次のとおり。

本店所在地:東京都中野区

預金量:2兆1,888億円、貸出量:1兆5,639億円、

常勤従業員数:1,214人、店舗数(出張所含む):76店舗

しているNPO団体などに対して十分な資金提供がされておらず活動がしきれていないという実情を鑑み、寄付だけでなく融資も行い、応援していくものである。

本取組みを継続していく中で、環境配慮意識を醸成する定期預金も開発した。これは後に東京都の「エコ金融プロジェクト」に指定されたものである。2013年からはこれら取組みをさらに進化させ、環境分野に限定することなく、福祉や教育、子育てといった様々な地域課題に取り組む団体・活動に対する総合支援を地域金融機関の本業の一つと位置付け、社会貢献性の高い事業の成長を応援する専用融資や当金庫取引先の専門家と連携した事業成長を応援する経営相談、長期実践型インターンシップ等を実施した。

そして2020年2月1日に当金庫がSDGsを意識した取組みを行っていることを、地域、取引先や当金庫職員にも改めて認識してもらい、今まで以上にSDGsを意識した活動を行っていくことを目的として、SDGs宣言の公表に至った。

3. SDGs宣言の公表時のポイント

当金庫では、SDGs宣言を公表する上で特段気負う必要はないと考えており、自分たちがこれまでやってきたことをおさらいする意識を持つことが重要であるという。

おさらいの方法としては、当金庫が4つの重点項目を選定したように、自分たちが今までSDGsに資する取組みとして取り組んできたもの、これからも変わらずに更に取り組んでいくものを洗い出し、整理する方法が有効である。また、SDGsにかかる施策を行う上でも、幅広く手をつけず、取捨選択して行うべきである。なお、これまでは結果としてSDGsに資する「取組みであった」取組みもあったが、これからは「取組みである」という意識醸成を職員に向け発信することも意識した。

【図表2】取組みのマッピング

①地域経済の発展と産業の活性化	事業支援活動 ・ 専門家派遣事業による課題解決支援 ・ 公的支援施策取得活用支援 ・ ビジネスマッチング支援 ・ ビジネスフェアの開催 ・ 東京発！物産・逸品見本市の開催 ・ 産学連携支援 ・ 事業承継支援 ・ 創業支援
-----------------	--

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 海外展開支援 ・ 西武しんきんキャピタルによるベンチャービジネス投資 ・ AI・キャッシュレス化の普及支援 ・ 再生支援
②豊かで魅力ある街づくり	街づくり支援活動 ・ 「街づくり定期預金」による、地域・社会の課題解決に取り組むNPO団体等に対する助成金の交付 ・ ソーシャル・コミュニティビジネスを行っている団体・事業者に対する支援「西武コミュニティローン」の取扱い ・ 地域活性化事業を行う商工会議所・商工会等の団体および中小企業との産学連携事業を行う大学等に対する「地域産業応援資金」の贈呈 ・ 地域イベントへの協力 資産形成・管理支援活動 ・ リバースモーゲージタイプローン ・ 商事信託、民事信託、遺言信託 ・ 投資信託 ・ 生命保険
③多様な人材育成	当金庫の取り組み ・ 職員の要望を反映した職場環境、設備の改善 ・ 職員のスキル・職位に応じた適宜適切な研修などの見直しと活性化 ・ 短時間勤務制度の対象を3歳未満から小学校卒業まで延長
④環境活動	当金庫の取り組み ・ エコアクション21に資する取組み ・ 環境省 温暖化防止対策活動「COOL CHOICE」に賛同し実施イベントに参加 ・ エコキャップ運動を実施 ・ クールビズ・ウォームビズの実施 ・ 環境に配慮した設備、備品等の採用（LED・環境配慮型店舗・ディスクロージャー等にFSC認証紙を使用・ビジネスフェア粗品） 普及促進の取り組み ・ 環境やSDGsをテーマにした、お客さま向けのセミナーの実施 ・ NPO法人環境文明21が主催する経営者「環境力」大賞への協賛およびお客さまへの啓蒙提案活動の実施

4. SDGs宣言の公表による効果

当金庫では、SDGs宣言の公表は、あくまでSDGsに資する取組みの一部であるという認識を持っている。このため、SDGs宣言の公表によって取引先支援の方法を変えてはいないものの、取引先と一歩進んだ展開が望めるようになったという。具体的には以下の事項が挙げられる。

- ・ SDGsに関心がある取引先との対話において、SDGsという共通の話題を持つことができること
- ・ SDGsの話題を取引先への訪問のきっかけにできること
- ・ これからSDGsを事業に取込みたいと考えている取引先から、SDGsの説明やノウハウなどの共有依頼を受け、通常よりも深い対話ができること

ここで重要なのは、信用金庫の日常業務の中にSDGsを組み込み、取引先の今後のビジョンにおける課題解決やニーズ対応、関係強化に繋げることである。

本レポートは、情報提供のみを目的とした上記時点における当研究所の意見です。施策実施等に関する最終決定は、ご自身の判断でなさるようお願いいたします。また、当研究所が信頼できると考える情報源から得た各種データ等に基づいて、この資料は作成されておりますが、その情報の正確性および完全性について当研究所が保証するものではありません。

5. SDGsに資する主な取組み

(1) 西武SDGs応援定期預金

前記のとおり当金庫では、「地域活性化に資するNPO団体・ソーシャルビジネスへの総合支援の取組み」を行っており、これら取組みを行う中で独自の定期預金（西武SDGs応援定期預金）の提供を開始した。

当該定期預金は、当金庫のインターネット支店である「東京プライベートネット支店」専用の取扱商品として、2020年9月に取扱いを開始した。特徴としては、預金者の初回満期利息の一部と同額相当を当金庫も拠出し、その合計額をSDGsに取り組む団体等に助成金として進呈することである。預金者は、間接的にSDGsに資する活動に参画できる。助成金を進呈する団体等は、SDGsの17のゴールに資する活動を実施している団体で、進呈先については今後順次決定する予定である。また、募集の都度、対象となるゴールを変更していく予定である。

当該定期預金は預金量の獲得ではなく、SDGsの普及促進に寄与することをコンセプトに取扱いを実施した。そのため、より多くの方にSDGsを知ってもらうためにインターネット支店での取扱いとした。また金利設定についても募集当時のネット銀行の金利相場と比較し高い設定にはしなかった。これは、他行の定期預金と比較して高い金利で提供すると、預金者がSDGsに資するという認識よりも、運用に有用であるという認識を強く持つてしまう恐れがあるためである。

ここに預金者の目先のメリットではなく、将来の地域全体のことを考える当金庫のSDGsに対する考え方の真髓を見ることができる。

当該定期預金の仕組みは図表のとおり。

【図表3】西武SDGs応援定期預金



①預金者は、スマホアプリから申込みを行う。

②当金庫は、初回満期時、税引き後利息の90%を預金者に支払う。

③当金庫は、税引き後利息の10%（A）を助成金原資とする。

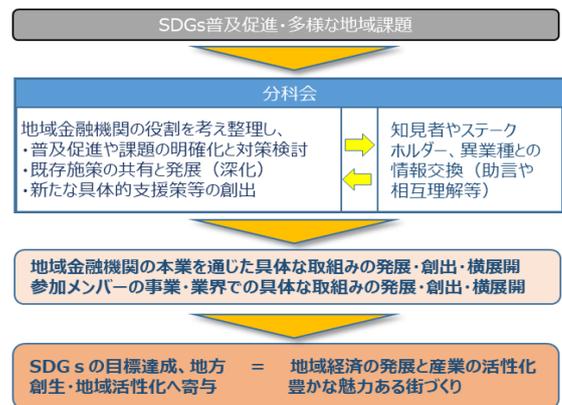
④当金庫は、（A）と同額相当（B）を助成金として拠出する。

⑤当金庫は、（A）および（B）の助成金をSDGsに取り組む団体に進呈する。

(2) 地方創生SDGs官民連携プラットフォーム分科会の設立・運営

当金庫では、SDGs普及促進のための地域金融機関の役割を考え、具体的な取組みの発展と創出を目指すことを目的として「地方創生SDGs官民連携プラットフォーム分科会」を設立し、異業種連携を行っている。

【図表4】分科会の目的等



(3) その他

- ・例年、取引先に配布するカレンダーのデザインを公募にて決定しているが、2020年は、「あなたの身近なSDGs」をテーマとして募集を行った。
- ・内閣府の子供の未来応援国民運動「こどものみらい古本募金」の取組みに賛同し、2020年11月より当金庫15店舗に専用の古本回収ボックスを設置した。本取組みは、読み終わった本を活用した寄付プログラムで、貧困の状況にある子供たちに寄り添い、子供食堂や学習支援等の草の根の活動を行っているNPO等の支援に活用するものである。

これらの施策はSDGs宣言を公表したことで、取引先等からの認知度が上がったため行うことができるようになったものといえる。

このため、SDGsを起点とした企画ならびに取引先の課題解決施策提案を行うことができるようになったという点で、SDGs宣言の公表は有効であると考えられる。

6. 今後の展望

環境省も提言しているとおり、SDGsへの対応がビジネスにおける取引条件になる機運が高まっている。SDGsは、持続可能な経営を行う戦略として活用できることから、今後さらに重要性を持つと考えられる。

今後、当金庫では、外部機関とも連携し、取引先へのSDGsに資する啓蒙活動や多様な支援を行っていく予定である。前記のとおりこのような活動は取引先の本業支援の一助となる。

コロナの緊急対応融資が一段落し、取引先の本業支援に力を入れていく今だからこそ、地域の中小企業を支える地域金融機関としてSDGsに力を入れる必要がある。その際は、信用金庫の「相互扶助」の理念とSDGsの理念を一体と捉える当金庫の考え方を取り入れることも一案である。

以上